

口語タミル語における「連用修飾的複文」

小幡 千陽

1. はじめに

1.1. タミル語について

タミル語は、ドラヴィダ語族の南部ドラヴィダ語派に属する言語である。インド共和国の公用語の1つとしてタミル・ナードゥ州で話されている他、スリランカ北東部、マレーシア、シンガポール、インドネシア、マダガスカル、モーリシャス、フィジー、中・南部アフリカでも用いられている¹。本稿で調査の対象とするのは、インド国内、タミル・ナードゥ州の中央部の、非ブラーミン(非バラモン)カーストの口語タミル語である。

タミル語には地理的な方言とカーストに基づく社会的な方言が存在する上に、話者はスタイルの異なる2つのバリエーションを使い分ける。2つのバリエーションは、大まかにいうと文語と口語の区別に相当する。フォーマルなバリエーションはほとんどの書き言葉やラジオやテレビのニュース、政治的なスピーチや講義などに使われる一方、インフォーマルなバリエーションは日常のコミュニケーション(会話、気軽なメール)や映画のセリフなどに使用される²。「文語」は書き言葉だけに、「口語」は話し言葉だけに限られないため、「文語」「口語」と呼ぶのは必ずしも適切ではないが、ここでは便宜上「文語」「口語」と呼ぶことにする。「文語」には標準的なものが存在する一方、標準的な「口語」の中でも、タミル・ナードゥ州の地理的な中央部であるマドライ、タンジャーヴール、ティルチラパッリ周辺の、非ブラーミンの人たちが話す言葉に最も近いと言われている(Zvelebil 1963, Schiffmann 1999, Steever 1987 など)。

1.2. 調査概要

本稿では、マドライ出身非ブラーミンカーストの、教養のあるタミル語話者数名を対象に調査を行った。更にタンジャーヴール地区(Kumbakonam)出身のタミル語教師にも調査内容の確認を行ったが、その際のデータは補助的に使用することとする。インフォーマント情報の詳細は以下の通りである。尚、詳細なカーストを聞くほど立ち入った質問はできなかったため、方言差が顕著であるブラーミン/非ブラーミンの区別以上にはカーストの特定はしていない。

¹ 家本・徳永(1989: 668)を参考にした。

² Steever(1987: 730)を参考にした。

表 1: インフォーマント情報とデータ種別

インフォーマント	A	B	C	D	E
出身地	マドライ	マドライ	マドライ	マドライ	タンジャー ヴール地区
学歴	修士卒	大学卒	大学卒	大学卒	修士卒
カースト	不明 (非ブ ラーミン)	不明 (非ブ ラーミン)	不明 (非ブ ラーミン)	不明 (非ブ ラーミン)	不明 (非ブ ラーミン)
年齢	27	24	27	29	54
性別	F	M	M	M	F
データ種別	データ X			データ Y	データ Z

データの収集は、3 回に分けて行った。インフォーマントは日本語が分からないため、筆者が例文を英語に訳したものを基に調査を行った。データ X は 2015 年 3 月 7 日から 8 日にかけて、ある家族に対して行った調査に基づく。A と B は兄弟で、A と C は夫婦である。例文 (1) から (9) までは A が、(10) から (32) までは B が、適宜他の 2 人と相談しながら筆者のノートに書き込み、読み上げた。データ Y は 2015 年 2 月 28 日に行った調査によるもので、D が口頭で答えるのを、筆者が D に確認を取りながら書き取った。データ Z には、タミル語教師である E にデータ X と Y を見せて確認して別の言い方を提案してもらったものと、筆者が作成したものを確認してもらったものが含まれる。E への確認は、2015 年 3 月 9 日に行った。

以下に示す各例文の後ろには、どこで収集したデータかが明確になるように、データ種別を [] で囲んで提示する。

2. タミル語の連用修飾複文

調査で得られた例文に現れる限りでは、タミル語には、連用修飾複文の従属節を形成する手段が大きく分けて 2 つ存在する。1 つは定動詞を使う方法、もう 1 つは不定動詞を使う方法である。ここで「定動詞 (finite verb)」とは時制・人称・数を表わす屈折接辞の全てが動詞語幹に後接している動詞、「不定動詞 (infinite verb)」とは時制・人称・数のいずれも標示できないか、もしくは時制接辞のみを標示できる動詞の形³を指す。助動詞も動詞

³ 不定動詞としては「接続分詞 (conjunctive/verbal participle)」「関係分詞 (relative/adjectival participle)」「不定詞 (infinitive)」「命令形 (imperative)」の 4 つが挙げられる。本稿に関係があるのは前の 3 つである。本稿では、ここでいう関係分詞のことを「連体分詞」と呼んでいる。

と同じ活用をするため、以下まとめて便宜的に「動詞」と呼ぶ。

2.1. 定動詞を使う方法

定動詞を使う方法には、定動詞で終わる節をそのまま並置する方法と、前節の定動詞に引用マーカ-*n* を付加する方法がある。

2.1.1. 定動詞のみ

定動詞で終わる節をそのまま並置できるのは等位接続の場合に限られると思われる。今回のデータで現れたのは (例 4) の 1 例のみであった。

- (4) *innekk-um appaa aaffiis-kku poo-yi-t-t-aaru, appuram*
 今日-ADD 父 オフィス-DAT 行く-CONJ-CMPL-PST-3.H.HON 後
aṅṅan-um yunivaasiṭi-kku poo-yi-t-t-aan-ga [X]
 兄-ADD 大学-DAT 行く-CONJ-CMPL-PST-3M-PL

〔lit.〕 日も父は会社に行った、そして兄は大学に行った〕

ここで前節の動詞 *poo-yi-t-t-aaru* にも後節の動詞 *poo-yi-t-t-aan-ga* にも定動詞が使われているが、後者のイントネーションが下降調になっているのに対し、前者はわずかに上昇している。インフォーマントはいずれも「会社に行って、」の後で文が切れているとは認識しておらず、全体で 1 つの文であることを強調していた。この上昇イントネーションは、定動詞を使ってはいけるが発話の切れ目ではないことを表わしていると考えられる。

2.1.2. 定動詞+引用マーカ-

定動詞に引用マーカ-*n*⁴を付けるか、*-n* に続けて更に接続辞を付けると、従属節を形成することができる。*-n* の後には理由節を作る具格の *-aale*、条件節を作る *-aal* などが接続できる。全ての活用形を持つ通常の動詞であれば、理由節や条件節を作るのに「定動詞+*-n*+*-aale/-aal*」を使うことも、不定動詞に *-aale/-aal* を付加した形を使うこともできる (理由節は 2.2.4、条件節は 2.2.5 を参照)。いくつかの活用形を欠く例外的な動詞の場合は、引用マーカ-を使う方法でしか従属節化することができない。

- (10b) *veliye nall-aa paak-k-a-ṅum-nu jannal kadav-e tira-nt-aan-Ø [Y]*
 外 良い-ADVR 見る-SE-INF-NSS-QUOT 窓 扉-ACC 開く-PST-3M-SG
 〔lit.〕 外を良く見たい/見なければいけないと、窓の扉を開けた〕

- (14a) *naa[ekku maze pee-nc-utu-nn-aa naan anke poo-k-a*
 明日 雨 振る-PST-3.N-QUOT-COND 1.SG.NOM あそこ 行く-SE-INF

⁴ *-n* は文語の「～と言う」を意味する動詞 *|eNR|* (文語は || で囲んで示す。脚注 6 を参照) の接続分詞に由来し、現在でも一部動詞としての用法を残している。

maat[-een] [X]

NEG.FUT-1.SG

「明日雨が降ったら、私はそこに行かない」

2.2. 不定動詞を使う方法

不定動詞を使う場合には、以下の5つの手段によって連用修飾複文の従属節が形成される。すなわち、①接続分詞、②不定詞、③動名詞+接続辞、④連体分詞+接続辞、⑤過去語幹+接続辞の5つである。

2.2.1. ①接続分詞

接続分詞（動詞語幹⁵+接続分詞形成接尾辞）は、同時や継起を表わす従属節を形成する（例1, 2, 5）。

(1b) avan-Ø e-ppa-vum-ee peepar paqic-cu-**tt-ee** saappidu-v-aan-Ø [Z]

あの人-SG INT-TIME-ADD-EMP 新聞 読む-CONJ-SIM-EMP 食べる-FUT-3M-SG

「彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる」

(2b) neettu naiṭu pattu maṇi-kku vii[-tu-kku va-ndu-**ttu**, [iivii paat-tu-**ttu**

昨日 夜 十 時-DAT 家-OBL-DAT 来る-CONJ-SEQ テレビ 見る-CONJ-SEQ

appuram-aa paḍuk-ka poo-n-**een** [Y]

後-ADVR 横になる-INF 行く-PST-1.SG

「(私は) 昨日 10 時に家に帰って、少しテレビを見て (から) 寝ました」

同時も継起も、文脈によっては動詞の接続分詞のみで表すことも可能であるが、どちらもその後ろに-*tt* という接辞が付くことが多い。ただしややこしいことに、同時の場合に付く-*tt* と継起の場合に付く-*tt* は歴史的に違う起源を持ち、話者は未だに2つを別のものであると認識しているのだ。継起の場合の-*tt* は口語ではこの形しか持たないのに対し、同時の場合の-*tt* は異形として-*kitt* という形を持ち、ゆっくり発音された場合には長い方の-*kitt* という形がよく現れる。これらのことから、本稿では、異形態を持たず同時の場合に使われるものと、-*kitt* と交替し得る継起の場合に使われるものを、別形態素であると分析する。継起ではなく同時であるということを明確に示すために、(1b)のように-*tt*~-*kitt* の後ろに強調の接辞-*ee* を付加することが多い。

2.2.2. ②不定詞

不定詞（動詞語幹 (+語幹拡張辞)+不定詞形成接尾辞）は、目的を表わす従属節を形成す

⁵ 本稿では、屈折接辞が後接する基になる部分、すなわち動詞語根+派生接辞、もしくは派生接辞が付かない場合は動詞語根のみを「動詞語幹」と呼ぶ。

る (例 9). 2.2.3 で述べるように動名詞+接続辞も目的を表わすのに使われるが、今回の調査ではいずれのインフォーマントも (例 9) には不定詞, (例 10) には動名詞+接続辞を使って回答した. 調査票のラベルでは (例 9) は「移動の目的」, (例 10) は「目的・意図」とされている.

- (9) anda aa[u bukks **vaang-a** poo-yiruk-k-aaru [X][Y]
 あの 男 本 買う-INF 行く-RES-PRS-3.H.HON
 「あの人は本を買いに行った」

2.2.3. ③動名詞+接続辞

動名詞 (動詞語幹+時制接尾辞+連体化接尾辞+人称接尾辞) に付く接続辞は, 格助詞など通常名詞に接続するものである. 動名詞+接続辞の従属節は, 理由や目的を表わす場合に使われる (例 3, 8, 10).

- (8a) neettu tale **valic-c-a-d-aale** siikkiram tuung-a poo-yi-t-t-een [X]
 昨日 頭 痛む-PST-ADN-NR.N-CSL はやく 寝る-INF 行く-CONJ-CMPL-PST-1.SG
 「昨日は頭が痛かったので, いつもより早く寝ました」

- (10a) avan-Ø ve[ɟiye nall-aa **paak-kur-a-du-kk-aaka** jannal
 あの 人-SG 外 良い-ADVR 見る-PRS-ADN-NR.N-DAT-PURP 窓
 tira-nd-aan-Ø [X]
 開く-PST-3.M-SG

「(彼は) 外が良く見えるように窓を開けた」

理由を表わす時には具格の-aale が, 目的を表わす場合には与格の-kk が, 動名詞の後に接続する. 目的を表わすことをはっきりさせるために, 与格の-kk の後に-aaka が付くことが多い.

過去の動名詞に付加を表わす-um が接続すると, 前節の事態の直後に後接の事態が起こったことを表わす.

- (12b) kadav-e tira-nd-a-d-um jillu-nnu kaattu u[ɟe va-ndu-ccu [Y]
 扉-ACC 開く-PST-ADN-NR.N-ADD ヒヤリ-QUOT 風 中 来る-PST-PST.3N
 「扉を開くと (すぐに), ヒヤリと風が中に入って来た」

2.2.4. ④連体分詞+接続辞

連体分詞 (動詞語幹+時制接尾辞+連体化接尾辞) に付く接続辞の多くは, 歴史的には名詞に由来するものである. 連体分詞+接尾辞は, 時間に関する従属節を形成する. まず「連体分詞+poodu/poo/pa (‘~する/した時’)」は同時や恒常条件, 確定条件などを表わす (例 1, 11,

12, 13). *poodu/poo/pa* は文語で使われる「時」を意味する名詞 *|pozutu|*⁶ に由来し, *|pozutu|* > *poodu* > *poo* > *pa* のように形が短くなり従属節を形成する接続辞になったと考えられる⁷. 尚, *poodu/poo/pa* はいずれも日常的な会話において使用され得るが, 形が短くなるにつれより口語らしい表現だと見做される⁸.

(11) *i-nge veyil kaalam aak-um-Ø-boodu ađikkadı maze peyy-um* [X]
 ここ 陽光 時期 なる-FUT-ADN-TEMP しばしば 雨 降る-FUT.3.N
 「ここでは夏になると, よく雨が降ります」

(12a) *naan-Ø kadav-e tera-nt-a-ppoo jillu-nnu u||e kaattu va-ndu-ccu* [X]
 I.NOM-SG 扉-ACC 開く-PST-ADN-TEMP ヒヤリ-QUOT 中 風 来る-PST-PST.3.N
 「扉を開けると, 冷たい風が入って来た」

「連体分詞+*vare* ((+kk)+*um*)) (‘～まで’)」は, 出来事の終了期限を表わす (例 31). *vare* は文語で使われる「限界」を意味する名詞 *|varai|* に由来する. *vare* の後ろには付加を表わす *-um*, あるいは与格の *-kk* と付加の *-um* が付くことができる.

(31b) *anda aa|u var-r-a-vare-kk-um weit paṇṇu-r-een* [Y]
 あの 男 来る-PRS-ADN-LMT-DAT-ADD 待つこと する-PRS-1.SG
 「あの人が来るまで, 私はここで待っています」

「連体分詞+*uđan* (-*ee*)) (‘～直後に’)」は, 前節の事態の直後に後接の事態が起こったことを表わす. *uđan* は「直後」の意味を持ち, 主に副詞として使われる. 従属節を形成する時もしない時も, 後ろに強調の *-ee* を伴うことが多い. 2.2.3 で述べた「動名詞過去+ *-um*」と同様の文脈で使用され, 相互に言い換えが可能である.

(18a) *tayavu se-nju steefan-kku poo-n-a uđan-ee kool paṇṇ-i*
 親切 する-CONJ 駅-DAT 行く-PST-ADN 直後-EMP 電話 する-CONJ
collu-Ø [X]
 言う-IMP
 「駅に着いたら ((lit.) 行った直後に) 電話をしてください」

⁶ 文語でのみ使われる形は || で囲んで示し, 表記は正書法を転写したものとする. 転写は以下の通りとする. *ǂ=a*, *ǂ=aa*, *ǂ=i*, *ǂ=ii*, *ǂ=u*, *ǂ=uu*, *ǂ=e*, *ǂ=ee*, *ǂ=ai*, *ǂ=0*, *ǂ=00*, *ǂ=au*, *ǂ=k*, *ǂ=ŋ*, *ǂ=c*, *ǂ=ŋ*, *ǂ=ŋ*, *ǂ=t*, *ǂ=n*, *ǂ=p*, *ǂ=m*, *ǂ=y*, *ǂ=r*, *ǂ=l*, *ǂ=v*, *ǂ=z*, *ǂ=*, *ǂ=R[r~t]*, *ǂ=N[n]*

⁷ *poodu* は口語だけでなく文語でも使われるが, *poo/pa* は口語のみで使われる形である.

⁸ 連体節では時制の対立が過去・非過去の2つしかないのだが, 非過去の場合 *poodu* の前では未来接辞, *poo/pa* の前では現在接辞が選択される. 他の連体節でも, 非過去なら文語では未来接辞, 口語では現在接辞が主に使われる.

2.2.5. ⑤過去語幹+接続辞

過去語幹（動詞語幹+過去接辞）には、理由を表わす *-aal* が接続する。過去語幹+ *-aal* は、仮定条件、逆接、反実仮想を表わすのに使われる（14~21, 28, 29, 30）。過程条件の従属節は「過去語幹+ *-aal*」, 逆接の従属節は「過去語幹+ *-aal* + *-um*（‘付加’）/*kuuḍa*（‘～さえ’）」という形になる。反実仮想は、条件部分には「結果アスペクトを表わす助動詞 *iru* の過去語幹+ *-aal*」を、帰結部分には「結果の助動詞 *iru* の未来形」を、それぞれ動詞の接続分詞形に付加することによって表す。

(14b) *naa[ekku mazaḥ pee-nc-aa anke poo-k-a maat[een [Y]*
 明日 雨 降る-PST-COND あそこ 行く-SE-INF NEG.FUT-1.SG
 「明日雨が降ったら、私はそこに行かない」

(28b) *kiizeḥ pooḥ-ḥ-aal-um inḍa kapp uḍe-yaadu [Y]*
 下 落とす-PST-COND-ADD この コップ 壊れる-NEG.FUT.3.N
 「このコップは落としても割れない」

(16) *anda maadiri iḍat-tu-kku poo-k-aama iru-nd-iru-nd-aa*
 あの 様 場所-OBL-DAT 行く-SE-CONJ.NEG いる-CONJ-RES-PST-COND
nall-aa iru-nd-iruk-k-um-nu ninek-kir-een [X]
 良い-ADVR ある-CONJ-RES-SE-FUT-QUOT 思う-PRS-1.SG
 「あんなところに行かなければよかった」

3. データ

(1) 【同時動作】彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

a. *a-van-Ø eppa-vum-ee peepar paḍik-kir-a-ppa saappiḍu-v-aan-Ø [X]*
 あの 人-SG いつ-ADD-EMP 新聞 読む-PRS-ADN-TEMP 食べる-FUT-3.M-SG
 「(lit.) あの人はいつも新聞を読むとき食べる」

b. *avan-Ø e-ppa-vum-ee peepar paḍic-cu-ḥ-ee saappiḍu-v-aan-Ø [Z]*
 あの 人-SG INT-TIME-ADD-EMP 新聞 読む-CONJ-SIM-EMP 食べる-FUT-3M-SG

(2) 【継起的動作・物語的連鎖】(私は) 昨日 10 時に家に帰って、少しテレビを見て (から) 寝ました。

a. *neettu raattiri pattu maṇi-kku viiḥ-ḥ-tu-kku va-ndu, konca neeram*
 昨日 夜 十 時-DAT 家-OBL-DAT 来る-CONJ 少し 時間
ḥiivii paat-tu-ḥ-tu appuram paḍuk-ka poo-n-eeṇ [X]
 テレビ 見る-CONJ-SEQ 後 横になる-INF 行く-PST-1.SG

b. neettu naiṭu pattu maṅi-kku viiṭ-tu-kku va-ndu-ṭṭu, ṭiivii paat-tu-ṭṭu
 昨日 夜 十 時-DAT 家-OBL-DAT 来る-CONJ-SEQ テレビ 見る-CONJ-SEQ
 appuram-aa paḍuk-ka poo-n-een [Y]
 後-ADVR 横になる-INF 行く-PST-1.SG

(3) 【継起: 理由】 (私は) 昨日階段で転んで、怪我をってしまった。

a. neettu paḍikkattṭu-le taḍumaar-i vizu-nd-a-d-aale kaayam
 昨日 階段-LOC.NH よろめく-CONJ 落ちる-PST-ADN-NR.N-INST 怪我
 aa-yi-ḍu-ccu [X]
 なる-CONJ-CMPL-PST.3.N

b. neettu ena-Ø-kku paḍikkattṭu-le vizu-ndu kaayam aayi-ḍ-uccu [Y]
 昨日 1.OBL-SG-DAT 階段-LOC.NH 落ちる-CONJ 怪我 なる-CMPL-PST.3.N

(4) 【異主語】 今日も父は会社に行って、兄は大学に行った。

innekk-um appaa aafiis-kku poo-yi-t-t-aaru, appuram
 今日-ADD 父 オフィス-DAT 行く-CONJ-CMPL-PST-3.H.HON 後
 aṅṅan-um yunivaasiṭi-kku poo-yi-t-t-aan-ga [X]
 兄-ADD 大学-DAT 行く-CONJ-CMPL-PST-3M-PL

(5) 【付帯状況】 (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。

innekku anda aaḷu toppi poot-ṭu naḍa-ntu poo-n-aaru [X]
 今日 あの 男 帽子 身に着ける-CONJ 歩く-CONJ 行く-PST-3.H.HON

(6) 【並行動作】 (私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

naan-Ø eppa-vum liivu-nn-aa annekku bukk paḍik-kir-a-du,
 1.NOM-SG いつ-ADD 休み-QUOTE-COND その日 本 読む-PRS-ADN-NR.N
 ṭivi paak-kir-a-du idu maadiri paṅṅ-i-ṭṭurup-p-een [Z]
 テレビ 見る-PRS-ADN-NR.N これ 様 する-CONJ-PROG-FUT-1.SG

(7) 【理由・カラ】 時間がないから、急いで行こう。

neeram ille, siikkiram-aa kiḷambu-v-oom [X]
 時間 NEG はやく-ADVR 出発する-FUT-1.PL

(8) 【理由・ノデ】 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

a. neettu tale valic-c-a-d-aale siikkiram tuung-a poo-yi-t-t-eeen [X]
 昨日 頭 痛む-PST-ADN-NR.N-CSL はやく 寝る-INF 行く-CONJ-CMPL-PST-1.SG

b. neettu siikkiram tuung-a poo-yi-t-t-aan een-n-aa ena-kku
 昨日 はやく 寝る-INF 行く-CONJ-CMPL-PST-1.SG なぜ-QUOT-COND 1.SG.OBL-DAT
 tale valic-c-udu [X]
 頭 痛む-PST-3.N

(9) 【趨向/移動の目的】 あの人は本を買いに行った。

anda aa|u bukks vaang-a poo-yiruk-k-aaru [X][Y]
 あの 男 本 買う-INF 行く-RES-PRS-3.H.HON

(10) 【目的・意図】 (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

a. avan-Ø veliye nall-aa paak-kur-a-du-kk-aaka jannal
 あの-人-SG 外 良い-ADVR 見る-PRS-ADN-NR.N-DAT-PURP 窓
 tira-nd-aan-Ø [X]
 開く-PST-3.M-SG

b. veliye nall-aa paak-k-a-ṇum-nu jannal kadav-e tira-nt-aan-Ø [Y]
 外 良い-ADVR 見る-SE-INF-NSS-QUOT 窓 扉-ACC 開く-PST-3M-SG
 「(lit.) 外を良く見たい見なければいけないと、窓の扉を開けた」

(11) 【恒常的条件】 ここでは夏になると、よく雨が降ります。

inge veyil kaalam aak-um-Ø-boodu aḍikkaḍi mazaḍ peyy-um [X]
 ここ 陽光 時期 なる-FUT-ADN-TEMP しばしば 雨 降る-FUT.3.N

(12) 【確定条件・生起】 扉⁹を開けると、冷たい風が入って来た。

a. naan-Ø kadav-e tera-nt-a-ppoo jillu-nnu u|e kaattu va-ndu-ccu [X]
 1.NOM-SG 扉-ACC 開く-PST-ADN-TEMP ヒヤリ-QUOT 中 風 来る-PST-PST.3.N

⁹ 調査用例文では「窓」となっていたが、筆者が英語に訳す際に間違って「扉」としてしまったため、そのまま得られた文を掲載する。

b. kadav-e tira-nd-a-d-um jillu-nnu kaattu u||e va-ndu-ccu [Y]
 扉-ACC 開く-PST-ADN-NR.N-ADD ヒヤリ-QUOT 風 中 来る-PST-PST.3N
 「扉を開いてすぐに、ヒヤリと風が中に入って来た」

(13) 【確定条件・発見】坂を上ると、海が見えた。

naan-Ø sarukal meelee poo-k-um-Ø-boodu kaḍal paat-t-eeen [X]
 1.NOM-SG 坂 上 行く-SE-FUT-ADN-TEMP 海 見る-PST-1.SG

(14) 【仮定条件】明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

a. naa|ekku maze pee-nc-utu-nn-aa naan anke poo-k-a
 明日 雨 振る-PST-3.N-QUOT-COND 1.SG.NOM あそこ 行く-SE-INF
 maatf-eeen [X]
 NEG.FUT-1.SG

b. naa|ekku maze pee-nc-aa anke poo-k-a maatf-eeen [Y]
 明日 雨 降る-PSTCOND あそこ 行く-SE-INF NEG.FUT-1.SG

(15) 【反実仮想】もっと早く起きればよかったなあ。

naan-Ø siikkiram ezu-nd-iru-nd-aa nall-aa
 1.NOM-SG はやく 起きる-CONJ-RES-PST-COND 良い-ADVR
 iru-nd-iruk-k-um-nu ninek-kir-eeen [X]
 ある-CONJ-RES-SE-FUT.3.N-QUOT 思う-PRS-1.SG

(16) 【反実仮想・前件否定】あんなところに行かなければよかった。

anda maadiri iḍat-tu-kku poo-k-aama iru-nd-iru-nd-aa
 あそこ 様 場所-OBL-DAT 行く-SE-CONJ.NEG いる-CONJ-RES-PST-COND
 nall-aa iru-nd-iruk-k-um-nu ninek-kir-eeen [X]
 良い-ADVR ある-CONJ-RES-SE-FUT-QUOT 思う-PRS-1.SG

(17) 【一般的心理】1に1を足せば、2になる。

a. nii onn-ooḍa onn-e kuuff-in-aa adu reṇḍ-aa aak-um [X]
 2SG 一-SOC/GEN 一-ACC 集める-PST-COND それ 二-ADVR なる-FUT.3.N

b. onnu-kuuḍa onnnu seet-t-aa reṇḍ aa-yi-r-um [Y]
 一-SOC 一 合わせる-PST-COND 二 なる-CONJ-CMPL-FUT.3.N

(18) 【仮定条件+働きかけのモダリティ】 駅に着いたら電話をしてください。

- a. tayavu se-nju steeʃan-kku poo-n-a uʒan-ee kool paṇṇ-i
 親切 する-CONJ 駅-DAT 行く-PST-ADN 直後-EMP 電話 する-CONJ
 collu-Ø [X]
 言う-IMP
 「(lit.) 駅に行った直後に電話をしてください」

- b. steeʃan poo-n-a-t-um kool paṇṇu-Ø [Y]
 駅 行く-PST-ADN-NR.N-ADD 電話 する-IMP
 「(lit.) 駅に行つてすぐに電話をしてください」

- c. steeʃan poo-yi-ttu kuuppiḍu-Ø [Y]
 駅 行く-CONJ-SEQ 呼ぶ-IMP

(19) 【過程条件+願望】 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

- sandeyi aa-ccu-nn-aa elloo-r-ooḍe-yum paaku-kku poo-k-a
 日曜日 なる-FUT.3.N-QUOTCOND 全て-H.HON-SOC/GEN-ADD 公園-DAT 行く-SE-INF
 virumpu-v-eeen [X]
 望む-FUT-1.SG

(20) 【心配】 明日雨が降ったら困るなあ。

- a. naalekku maze pee-nj-udu-n-aa, piraccane aa-yi-ḍ-um [X]
 明日 雨 降る-PST-FUT.3N-QUOT-COND 問題 なる-CONJ-CMPL-ADD
- b. naalekku maze pee-nj-aa konjam siramam [Y]
 明日 雨 降る-PST-COND 少し 困難

(21) 【時間的前後関係に即していないナラ条件文】 家に来るなら、電話をしてから来てください。

- a. tayavu se-nju nii-Ø viiṭ-tu-kku va-r-a-du-n-aa foon
 親切 する-CONJ 2-SG 家-OBL-DAT 来る-PRS-ADN-NR.N-QUOT-COND 電話
 paṇṇ-i-ttu vaa-Ø [X]
 する-CONJ-SEQ 来る-IMP

- b. viit-[tu-kku var-r-ii-Ø-nn-aa foon paŋŋ-i-[tu vaa-Ø [Z]
 家-OBL-DAT 来る-PRS-2-SG-QUOT-COND 電話 する-COND-SEQ 来る-IMP

(22) 【予想を伴った条件文】(もうすぐベルが鳴るので) 鳴ったら, 教えて下さい.

- a. maŋi aɟik-k-um-Ø-boodu tayavu se-nju sollu-Ø [X]
 鐘 鳴る-SE-FUT-ADN-TEMP 親切 する-CONJ 言う-IMP

- b. bel aɟic-c-a-d-um konjam sollu-Ø [Y]
 ベル 鳴る-PST-ADN-NR.N-ADD 少し 言う-IMP
 「(lit.) ベルが鳴ってすぐに, ちょっと言ってください」

(23) 【予想を伴わない条件文】(もしかしたらベルが鳴るかもしれないので) もし鳴ったら, 教えてください.

- maŋi aɟic-c-aa, tayavu se-nju sollu-Ø [X]
 鐘 鳴る-PST-COND 親切 する-CONJ 言う-IMP

(24) 【相関構文】働かない者は, 食べるべきではない.

- a. jaar ellaam veele paak-k-a-le-yoo saappiq-a-kuuɟaadu [X]
 誰 全て 仕事 見る-SE-INF-NEG-DUB 食べる-INF-PROH

- b. jaar ellaam veele paak-k-a-le-yoo avan-ga saappiq-a-kuuɟaadu [Z]
 誰 全て 仕事 見る-SE-INF-NEG-DUB その人-PL 食べる-INF-PROH

- c. veele sey-y-aad-a-van-ga jaar-um saappiq-a-kuuɟaadu [Y]
 仕事 する-NEG-FUT-AND-NR.M-PL 誰-ADD 食べる-INF-PROH

(25) 【言いさし・願望】もう少しお金があったらなあ.

- en-Ø-kitte nireya kaasu iru-nd-iru-nd-aa nall-aa
 1.OBL-SG-LOC.H 沢山 お金 ある-CONJ-RES-PST-COND 良い-ADV
 iruk-k-um-nu ninek-kir-een [X]
 ある-SE-FUT.3.N-QUOT 思う-PRS-1.SG

(26) 【言いさし・提案】これも食べたら?

- id-e-yum saappiq-Ø [Y]
 これ-ACC-ADD 食べる-IMP

(27) 【言いさし・つき放し】 やりたいなら自分の好きなようにやれば?

ad-e paṇṇa-a-ṇum-n-aa piḍic-c-a maadiri paṇṇu-Ø [Y]
 それ-ACC する-INF-NSS-QUOTE-COND 好く-PST-ADN 様 する-IMP

(28) 【仮定的な逆接】 このコップは落としても割れない.

a. inda kapp-e nii-Ø kiize poṭṭ-ṭ-aa kuuḍa adu
 この コップ-ACC 2-SG 下 落とす-PST-COND さえ それ
 uḍe-yaadu [X]
 壊れる-NEG.FUT.3N

b. kiize poṭṭ-ṭ-aal-um inda kapp uḍe-yaadu[Y]
 下 落とす-PST-COND-ADD この コップ 壊れる-NEG.FUT.3.N

(29) 【アクチュアルな逆接】 このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない.

inda appul romba kaas-aa iru-nd-aal-um konjam kuuḍa
 この りんご ととも お金-ADV ある-PST-COND-ADD 少し さえ
 inik-k-a maatt-ṭ-udu [X]
 甘い-SE-INF NEG.FUT-3.N

(30) 【逆接 3】 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった.

a. naan-Ø avan-ga viiṭ-ṭu-kku poo-n-aa kuuḍa avan-Ø
 1.NOM-SG あの 人-PL 家-OBL-DAT 行く-PST-COND さえ あの 人-SG
 viiṭ-ṭu-le iruk-kur-a-du ille [X]
 家-OBL-LOC.NH いる-PRS-ADN-NR.N NEG

b. viiṭ-ṭu-kku poo-n-a-ppoo-vum avan-Ø ange ille [Y]
 家-OBL-DAT 行く-PST-ADN-TEMP-ADD あの 人-SG あそこ NEG

(31) 【時間的期限 1】 あの人が来るまで、私はここで待っています.

a. naan-Ø anda aa[u var-r-a-vare-yum inge weit
 1.NOM-SG あの 男 来る-PRS-ADN-LMT-ADD ここ 待つこと
 paṇṇu-r-eeen [X]
 する-PRS-1.SG

b. anda aa[u var-r-a-vare-kk-um weit paṇṇu-r-eeṅ [Y]
 あの 男 来る-PRS-ADN-LMT-DAT-ADD 待つこと する-PRS-1.SG

(32) 【時間的期限 2】 あの人があるまでに，食事を作っておきますよ。

naan-Ø anda aa[u var-r-a-du-kk u||e samaic-cu
 1.NOM-SG あの 男 来る-PRS-ADN-NR.N-DAT 中 料理する-CONJ
 muḍic-cu-ḍu-v-eeṅ [X]
 終える-CONJ-CMPL-FUT-1.SG

略号一覧

1: 1 st person 一人称	GEN: genitive 属格	PL: plural 複数
2: 2 nd person 二人称	H: human 人間	PROG: progressive 進行
3: 3 rd person 三人称	HON: honorific 尊敬	PROH: prohibitive 禁止
ACC: accusative 対格	IMP: imperative 命令	PRS: present 現在
ADD: additive 追加	INF: infinitive 不定詞	PURP: purposive 目的
ADVR: adverbializer 副詞 化辞	INST: instrumental 具格	PST: past 過去
AND: adnominalizer	INT: interrogative 疑問	RES: resultative 結果
CMPL: completive 完了	LMT: limitative 限定	SE: stem extender 語幹 張辞
COND: conditional 条件	LOC: locative 所格	SEQ: sequential 継起
CONJ: conjunctive 接続	M: masculine 男性	SG: singular 単数
CSL: causal 理由	N: neuter 中性	SIM: simultaneous 同時
DAT: dative 与格	NEG: negative 否定	SOC: sociative 社格
DUB: dubitative 疑念	NH: non-human 非人間	TEMP: temporal 時間
EMP: emphasizer 強調	NOM: nominative 主格	QUOT: quotative 引用
F: feminine 女性	NR: nominalizer 名詞化	
FUT: future 未来	NSS: necessity 必要	
	OBL: oblique 斜格	

参照文献

- 家本太郎・徳永宗雄 (1989) 「タミル語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 世界言語編 (中)』第2巻. 668-672. 東京: 三省堂.
- Schiffmann, H. F. (1999) *A Reference Grammar of Spoken Tamil*. Cambridge: Cambridge University Press.

- Steever, Stanford B. (1987) Tamil and the Dravidian Languages. In: Bernard Comrie (ed.) *The World's Major Languages*, 725-746. London: Routledge.
- Zvelebil, K. (1963) A Few Notes on Colloquial Tamil. *Tamil Culture* 10(3): 37-47.